

子ども

平和新聞

発行者

発行日
9月14日

福井空襲で多くの人々が犠牲に

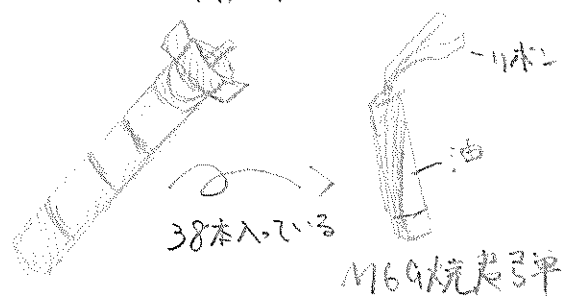
2万戸以上が火に

今から80年前、1945年7月19日23時24分から20日0時45分の間に福井で空襲が起こりました。今の県庁を中心上空襲を受け、2万戸以上が燃え約1500人もの人が亡くなりました。B29から焼夷弾が約9000発落とされ、街は炎に襲われました。焼夷弾は燃えやすい油が入っており、火が広がるようになっています。当時は木造の建物だったので、短い間に広範囲を焼き尽くしました。

焼夷弾のしくみ

投下されると落下途中に小型の焼夷弾を複数はらまき、着弾後に着火し燃焼します。

一度火がつくと高熱になり、消火が困難でした。

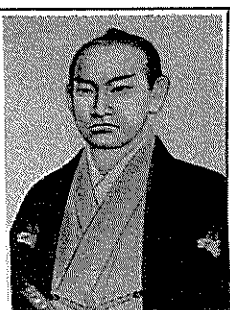


福井藩で活躍した人物



1845年に福井で生まれ、20才のときに福井藩の留学生

第1号としてアメリカのラトカス大学へ入学しました。26才のときに病死しました。成績優秀だった太郎に大学草はゴールドキーを送りました。



松平春嶽の側近として活躍しました。15才のときに、自身

内の志を記した「啓発録」を左書いた。25才のときに安政の橋本大獄で死罪になった。

戦争の非心惨を次世代へ

福井県平和祈念館は鯖江郵便局の近くにある、鯖江歩兵第36連隊の跡地です。施設には軍装、装備等の遺品や訓練、出征の様子の写真などがあります。戦争で父親を失い子供を育てるために、母親が力仕事をしていた家庭もありました。家族が一体となって助け合い、励まし合って生活していたそうです。当時は食料がなく雑草やぶろ水を食べていたなど、苦しい生活が続いたそうです。

何度でも立ち上がる

戦争から3年後の1948年6月28日午後4時13分、福井地震が起こり、空襲からの復興途上だった福井を襲いました。死者は3700人以上、全壊した建物は約3万6000戸もありました。水害も発生しましたが、いろんな助けを貸りながら市民達の努力によって、不死鳥のように蘇り、復興を遂げました。なんと人口も空襲と地震が起きる前より多くなりました。今でもスリクス通りにスリクスのマニホールがあるように「不死鳥のまち・福井」として空襲などの被害を伝えています。

編集後記

80年前に福井でも大きな空襲があり、多くの人々が犠牲になったことを知りました。その後の地震でもたくさんの方が被害を受けていたのに、諦めずにかんばって復興していったのはすごい事だと思いました。今平和に暮らしているのは本当に幸せだと改めて実感しました。